広報 こすど

発行所 小須戸町公民館
発行人 宮 崎 紀 能
印刷所 玉 鉄 印 刷 所
毎 月 1 日
一 部 5 円

厳粛のうちに式典

スポーツの殿堂披露

八十周年と体育館記念行事

町制施行八十周年を迎えた本町では、さる十一月三日の文化の良き日に記念式典が執行された。
またこの日町民の願いでもあった、町民体育館の完成により併せて、竣工式がおこなわれ、全町喜びに沸いていた。

町制施行八十周年と町民体育館の完成で、町はあげて喜びに沸いた。まことにめでたい限りである。だが我々一万町民はただ喜びに酔い、ひと時の喜びにうかれてばかりはいられない。静かにすぎた昔をふりかえり、今日の小須戸町につくりあげた先賢先輩を忘れることはできない。

これからの小須戸町に住む私たちが、先輩たちがのこした偉業を、土台として、小須戸町の発展のために、全町民が協力し、新しい町づくりへと努力したいものです。

表彰

功労、永年勤続者

一、自治功労者
元町長　岡田六太郎

二、自治功労者（議員）十二年以上
白井　門蔵
加藤　徳七
佐藤八十八
新井田辰次
森田　吾一
木村熊五郎
吉井嘉代太
平間　巻二
渡辺　潔
渡辺助一郎
青木　春一

三、自治功労者（農業委員）十二年以上
丸山清三郎
海津樹太郎
池田　清六
海津平一郎
吉沢　松吉
簑和耕四郎
打会七二郎

四、文化功労者
田中　四郎
宮崎　純能
間野　良知
成田　高常
柏　大治

五、農政功労者
村山吉五郎
丸山清三郎
海津平一郎
小川泰太郎
吉井喜代太

六、産業功労者
田中　達郎
渡辺　平七
梅津英五郎

七、体育功労者
塚　貞吉
渡辺清次郎
馬場　貞次

八、交通安全功労者
上原　鉄一

九、永年勤続者（消防団）二十年以上
川瀬周次郎
高野　慈一
今井長一郎
木村　稔
加藤　清
川崎　弘一
佐藤　一夫
鈴木　賢司
渡辺　八郎
阿達　作一
川俣　政雄

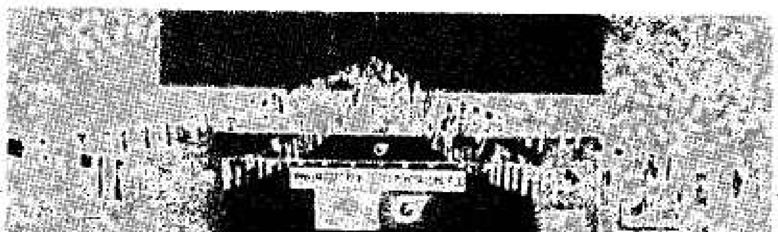
十、永年勤続者（一般事業所関係）三十年以上
和泉藤治郎
内山勇治郎
吉田　正次
風間金次郎
長沢岩三郎
斎藤　留七
高橋　シン
平野　一
川根　貞次
佐藤　儀一
田中　伝吉
中村　昌三
星田　関次
藤田巳代治
高野　忠士
保科　キミ
原　栄蔵
高橋　ナツ
柴沢　正雄
米倉　耕治
川村栄五郎

十一、永年勤続者（町職員関係）二十年以上
早川　清志
上田　方男
佐久間志一
星野　信男
打会清三郎
海津仁太郎
川崎弥之進
柏　大治
城丸　良雄
佐藤　富夫
小柳　ミイ
高津　ユリ
夏川　ホタ
中村　タミ
森田　昭司
石井　桂三
小野　末治
藤井　達雄

十二、感謝状（工事設計者）
A・R・T建築設計事務所
代表取締役　高橋哲吉

十三、感謝状（工事請負者）
株式会社吉田建設工業
代表取締役　吉田義一

十四、感謝状（体育器具寄贈者）
田中　四郎
小須戸スタンプ会
小須戸農業協同組合
小須戸ライオンズクラブ
小須戸中学校PTA



新体育館における記念式典

町章を発表

全国より応募

さきに町章作品を募集いたしましたところ全国より二百六拾三点の町章作品の応募がありました。十月十六日これらの作品を専門家により厳選審査の結果、左記の方が入選いたしましたから発表いたします。入選一位については町章として決定、町制八十周年記念行事の文化の日に披露いたしました。

入選者に対してはそれぞれ賞金を贈呈しました。

特に町民の町章応募くださいました方々には紙上をお借りして厚く御礼申し上げます。

小須戸町長　五十嵐重雄

記

入選一位
兵庫県津名郡津名町字生穂　牧　実則
註この人は女性で趣味で九十作入選。吉田町の町章もこの人の作品です。

佳作
仙台市上杉四丁目四ノ三
九　三浦　明
長崎市若竹町五一三ノ二
四　小柳　揚郎
以上

広域消防に加入

救急車配置

新年度を目途に

中ノ口川左岸の三村（味方、月潟、中之口）と白根市で昨年十一月に発足させた「白根市外三村消防事務組合」に新しく信濃川対岸にある当町が加入を申し入れ、新年度から、一市一町三村の大型広域消防組合の発足が濃厚となりました。

当町では、これまで三台の消防車と七人の職員で、消防署を組織してきたところですが、救急業務は新潟市に委託しており、今後さらに消防活動のスピードアップが不可欠の条件となったため、さきに「白根市外三村消防事務組合」に加入の申し入れをしました。

しかし加入の申し入れに際し、当町が示した組合費の負担額（初年度は三百万円、二年目からは三カ年間毎年百九十万円ずつ）に対して、初年度五百万円であと三カ年は年五十万円ずつという組合側の要望を、当町が検討していたため、結論が延び延びとなっていたところですが、この度当町が全面的にこの要望を了承、さる十一月十四日五十嵐町長から、正式に加入の申し入れがなされたものです。

今後は新年度発足を目途に、組合会議の承認や事務手続きを進める段階になっています。

当町とはすでにゴミ処理、火葬業務などを共同で処理する衛生センター組合に加入しており、こんど消防組合への加入が正式に認められれば、本市を中心として、行なわれている共同処理業務のうち、伝染病業務を除くすべてを共同で処理することになるわけです。

組合事務局と小須戸当局とで考えている加入後の構想は、小須戸町役場前にある消防署をそのまま分遣所（または分署）として使用し、現在備えている消防車三台（うち一台は消防団所有）のほか、救急車一台を新たに配置し、さらに現在の職員七名を十五名にふやして、小須戸町全域はもちろん、白根市の信濃川流域（黒埼地区、白井地区の一部）も圏内に入れたい意向です。

生きた教育とは

小須戸小学校長　浅岡嘉久吉

▲みぞれまじりの雨の降る寒い日であった。その日は汽車の中は割合に空いていた。私は二人の子供の腰かけている前に席をとったが、いつのまにかいろいろ話しを始めていた。二人は姉弟で五年生の女の子と二年生の男の子で明るい子供であった。両親は三カ月ほど前に病気で亡くなり、その日は叔母で母親の実家まで行っての帰りであった。次の駅に着くと父親が迎えに出ているとのことであった。

しばらくして私が「おとうさんは家のお仕事から会社のお仕事からたいへんですね。あんたの着ているセーターもおとうさんが買ってくださったんでしょう。」こういったら女の子は「いいえ、このセーターはおかあさんがあんでくれたんです」といった。おかあさんが編んでくれたんですと、いってから、ふと女の子の顔を見ると眼に涙がいっぱいあふれてきた。そしてその涙が頬をつたわって流れていった。そのセーターの中には母のあたたかい心が流れているのであろう。

次の駅に着いた時さよならといって汽車から降りていった。弟の手をひいていく二人の顔には冷たい風が吹いていた。

ホームを去っていく二人の姉弟の前途に幸あるようにと祈らずにはいられなかった。

教育で大切なのは子供の心の中でいつまでも生きていることである。……

▲私がまだ若い教師のころである。

受けもっている五年生に元気な明るい男の子がいた。たまたま悪い友達にさそわれて町の店のお金を盗み、飲み食いに使った。父親は船の事故で亡くなっていた。私は放課後その子供たちについていろいろ調査し、そして今後そのようなことがないように注意をした。

初冬の吹雪の日は暮れやすく帰っていく子供たちの背には夕やみが迫っていこうとしていた。

それからどれ位たったであろう。すっかり暗くなっている職員室で帰りしたくを始めようとしている時用務員のおじさんが来客のあることを告げた。玄関にいって見るとそこにはあの少年とその母親が立っていた。そして母親は静かにいった。

「この子供には、おまえはおとうさんがいないのだからほかの子供よりもっともっとよい子にならなければならない、といいきかせているのですが今日はたいへん悪いことをしましてご心配をおかけし、申訳ありませんでした。私が働かなければならないので、この子を見てやる時間がないのでこんなことになったのです。いちばん悪いのはこの私です。私はさっきこの子におかあさんがいちばん悪いのだから許してくれと、わびてきました。先生ほんとうに申訳ありませんでした。」母親の眼からは涙が流れていた。

母親は暗い吹雪の中を子どもの手をひいて帰っていった。その子は組の子どもたちからもしたわれるあかるい子になった。

子どもに心からわびることのできる親、子どもをしかる前に自分を反省することのできる親。教育の根本はこういうところから生まれてくるのではないだろうか。

暗くなってでも吹雪でも教育のためやった方がよいことはやりとおす勤勉さとしんけんさと忍耐力が欲しい。今の教育にはこんなところが欠けてはいないだろうか。

今はあたたかい車でどこへでもいける。吹雪の中に暗い夜道に親子のあたたかい手が結びあうような機会が今の教育では忘れられてはいないだろうか。……

▲人間と人間を結びつけるものは理くつではない。真実と愛情と熱意である。生きた教育はここから生まれてくることを忘れてはならない。

心あたたまる話

奉仕婆ちゃんに金一封

先日に御紹介しましたが諏訪神社清掃奉仕の田中ヘナさん、その日も一人黙々と境内の清掃奉仕をしておりました。

「お婆さん。御苦労さんですね」

という声にひょっと顔を上げると、立派な背広姿の紳士が目の前に立っていました。

「はい。どういたしまして」

と言い終る間もおかせず

「これはほんのしるしだがお小遣いにでもしてください」

とたたんだ千円札を一枚手に握らせました。余りに突然なのであっけにとられている婆ちゃんに軽く一礼をして紳士はすたすたと去ってしまいました。勿論住所も名前もお聞きする余裕もなかったわけです。日頃婆ちゃんの善行に胸をうたれておった方の感謝といたわりの真心だったと思います。

さて、どこのどなたか存じませんが、ヘナ婆ちゃん共々編集部からも厚く御礼を申し上げます。

（ヘナ婆ちゃんの談より取材）

青年期を有意義に

青年学級で弁論大会

昭和二十年、加茂市は七谷に生まれてからの、私のした、はらんに満ちた青春の一頁が始まります。

私は父母に三才で別れました。私の両親たちは加茂の家へ私を里子に出し、自分たちは別々に再婚してしまい、残された私は話せる相手もなく、友だちなんかも限られた人たちだけの寂しい毎日でした。だけど、私の唯一の友だちで、よい話相手になってくれた小学、中学の先生、だれもいない寂しい思いをし、小中学生時代を過ごしました。

三十五年、中学卒、父親の強引で頑固なやり方に破れて、燕市へ研磨工員として三年間働いてきました。親のいないことで、世間の人たちに何かと言われ、社会とのけんかも絶えなかった毎日でした。そんな会社を、何も言わずに飛び出し、手当り次第に職業を替えてみました。ある時は大工をやり、ある時は左官をやり、土方をやりと点々と職業を替えてみました。

私の十代には何が残ったのだろうと、ふと考えこむことがある。いたずらに職場を替えたのだろうか。いや違う。私の精神力の弱さと親のいないということで、世間から信用されなかったからだと思う。こんな生活をして来た私に世間が教えてくれたものは、強い精神力と集中力、自分の仕事に誇りと責任をもつことだと思いました。

私は現在、白根市の松沢商店へ勤務しております。加茂から白根へと来て、私は友だちもいなかった。いつも顔を合わすは会社の人やお客様ぐらいだった。そんな時、青年学級があるということを聞かされ、さっそく、市の教育委員会まで出かけて行き、入級のお願いをしてみました。そして、三ケ月目、十月のはじめ喜び勇んで、学級に飛び込んでみました。そしたら、私が燕市にいたころの農業サークルの友だちをやった人たちがはいっているではないか。

そして一回、二回と出席して行くにつれて仲間がふえて、私は学習日のくるのが楽しくてしようがなかった毎日でした。仕事のつごうをつけて、できるだけ多く参加して早く自分の一番の欠点である、引っ込み思案と無口を直すために一生懸命やってみた。

そんな自分が、学級の閉級式近くなると、自分の気持そのままを他人に話せるようになった。他人の話を聞くことも多くなった。学級でのライバルも出てきた。親友もできた私にとって、何だった白根市の学級生活はいろいろなことを教えてくれた。私の仕事のファイルにもなってくれた。私の青春時代に欠かせぬ数々の思い出多い学級でした。

そして今、小須戸町にも学級ができた。私は私なりにこの学校とともにみんなと力を合わせて、一日も早く一人前の学級になるようにがんばって行きたいと思います。そして、この学校、白根の学級を通して得た仲間を一生のライバルとしてまた一生の友だちとして力を合わせて行きたいと思います。

（学級生　高木栄作）

長寿者紹介（四）

明るい心で生活

新保　一本鷲ハルさん　九三才

明治十一年二月二十五日生れ、藤右エ門（とうざえん）の婆ちゃんで親しまれている。

総白髪の福顔で、無類の人好き、話し好きとかとにかく接する人を何んとも言えない明るい雰囲気に誘いこんでしまう。

足が少し不自由だが目や耳なども達者で、農繁期間の留守役や、家事の手伝いなど家では大切なお婆ちゃんであるらしい。

食べるものは全く好き嫌いがなく特にお茶が何よりおいしいという。

新築間もない立派な家で、この上とも明るい幸せな余生を送られることを心からお祈りする。

「日々是好日」仕事が楽しみ

矢代田　穴沢豊吉さん　九二才

男では町一の長寿者、高ケ沢の五右エ門（ごえんどん）のお爺さん、明治一二年五月一六日生れであるが、いやとてもとても、「壮者をしのぐ」とはこの人のための言葉といってもよい位である。

頑健そのものの身体で仕事をするのが何よりの楽しみであるらしい。

五十才を過ぎてから、はじめたという酒と煙草だが、決して無理はせず今でも定量の晩酌一本ですっかりよい機嫌になれる由。旅行が大好きで既に日本中殆んど行かない地方はないという。八九才の時北海道旅行ではじめて飛行機に乗ったことなど楽しそうに話してくれる。

お爺さん、この上とも壮健で、今度は海外旅行の記録でもつくられるようお祈りするものである。

人に施すことが何よりの趣味

帝石　蒲沢コンさん　九二才

新生の大婆ちゃん、明治一二年一一月二日生れ。近年耳が遠くなったがその他はまだまだしっかりしたものである。家に籠ることより出歩くことが好きで、日に何度も近くの縁者の家を訪れる。

お彼岸の行事などにも天気さえよければ必ずお参りする。人に物を施すことが楽しみで、今でも雑巾や編み物などを自分で作り、誰かれとなく分けてやっては喜んでいる。食物では果物が大好物で特に柿には目がないという。かわいい孫達にそれぞれによい嫁さんが授かるよう、それだけが祈りらしい。

お婆ちゃんの幸せはまだまだ続いてほしいものである。

年末郵便はお早めに

―郵便番号も忘れず―

年末も近づき、郵便局では最も忙しい季節を迎えます。この時期には平常の数倍の郵便物が、殺到しますので、局としてもその処理に万全を期すよう準備を進めております。しかも何分にも膨大な数でありますので、ご利用のみなさんの深いご理解をいただき、つぎの点について、格段のご協力をお願い致します。

◎小包は　十二月十五日までに！

荷造りはしっかりとして、荷札は二枚つけてください。

◎年賀状は　十二月二十二日までに！

郵便番号を書いていただくと、都道府県名は、省略できます。なおご自分の郵便番号も忘れずに書き添えてください。

◎こんな郵便は迷子になりやすい

一、郵便番号が間違えたもの。

二、丁目、番地のないもの

三、○○方と、肩書きのないもの。（子供さんあてのものに多い）

四、ビル、団地で棟、番号室番号のないもの。

五、町名が変ったのに、旧町名で書かれているもの。

◎年賀状　新しい受箱でどうぞ！

郵政省では郵便配達作業の能率化と確実な、配達のため全国的に家庭に「郵便受箱」を設置していただく運動を、昨年から五ケ年計画で実施しております。局区内でもだいぶ設置していただいておりますが、まだ二五％程度にとどまっております。

受箱があると、留守中でも配達でき、雨にもぬれずに一定の場所に、配達できて大変便利です。

現在郵便局で標準型受箱を一ケ、七〇〇円であっせんしております。是非この機会に設置していただくようお願い致します。

火の用心

火を多く使う季節です

共同募金ご協力に感謝

赤い羽根共同募金につきましては、町民各位のご協力によりまして、毎年良い成績をおさめておりますが、今年度も目標額（三十万九千七百円）に対し、実収募金額は、一般募金三十二万二千四百九拾七円で、法人募金では、四万七千九百円となり目標額より、一九・四％を上回る成績を得ましたことは、みなさんのご理解によるものと感謝申し上げます。

この募金はめぐまれない人たちの社会福祉施設や、高田市に建築される老人ホームの建設資金として活用されます。

税務署が新庁舎へ移転

旧庁舎をとりこわしてかねて新庁舎を建築中でしたが、十二月二十日に完成見込みとなりましたので、左記により新庁舎へ移転します。

移転月日　十二月二十五日（金）

所在地　新津市普通町一丁目六番三八号（旧庁舎あと）

電話番号　〇二五〇(二)(三)二一一一（代表）（変更ありません）

今後も、なお一層「信頼され、明るく近づき易い税務署」とするよう努力しますので、みなさんがたもどうぞ新しい庁舎へ、気軽においでください。ご意見要望、ご相談等広くご利用くださるよう、お願いいたします。

新津税務署

神保神社　石灯籠寄附

このたび新保の丸山清三郎氏は永年農協組合長を勤務退職され、感謝の意味で、神保神社境内に高さ三米の石灯籠を二基寄附されて神域に美観を添えることになった。氏子を始め村民に感謝されている。

うぶ声

九月一日より十一月十七日まで

清大沢　昭　八・三〇　山吹町　勝
清木　惜　八・三一　矢代田　幸男
木村　末齊　九・二　ウヂヰキ　隆端
合田　哲然　九・三　矢代田　修
吉田　雅行　九・六　一ノ町　政正
保科　あゆみ　九・七　矢代田　宋七
中沢　健一　九・一八　ウヂヰキ　貞夫
横　紀美子　九・二一　新明町　利男
田中　陽子　九・二〇　赤坂町　和一
須田　正聡　九・二九　矢代田　興輔
中沢　友子　九・三〇　泉町　行夫
鈴木　清久　九・三〇　東町　一雄
久保田紀子　九・二五　東蔵町　一男
小野　秀樹　九・二二　学校町　秀朗
逸　達郎　九・二四　三ノ町　忠
福島　留子　九・二七　新町　芳雄
五十嵐貴光　九・二五　天ヶ沢　蔵光
中山　忠博　九・二七　天ヶ沢　富栄
森田　人美　九・三〇　天ヶ沢　修
足田　貴雄　九・二四　三ノ町　宗輔
川中　靖　九・二六　矢代田　忠
菅原　勝矢　九・二七　一ノ町　昇旗
杉井　敦子　一〇・二　矢代田　盛雄
高橋　美穂　九・三〇　天ヶ沢　栄広
菅原　礼子　一〇・五　四ノ町　康夫
星田　剛　一〇・六　学校町　金雄
浜川　正尚　一〇・一〇　矢代田　常雄
斉藤　明子　一〇・一三　鎌倉　清吉
石井　慶治　一〇・一五　新町　勝
山本　新也　一〇・一六　学校町　浩雄
田巻千賀子　一〇・一九　横町　一男
久保香代子　一一・二　上稲荷町　芳郎
古沢　啓子　一〇・二六　神明町　修
保科　和美　一一・一　蔵前町　政治
高橋千恵子　一一・四　矢代田　和男
佐藤　学　一一・六　龍宮　静夫
保科　慎　一一・一四　横町　勝男
木伏　徳子　一一・一七　矢代田　義之

おくやみ

九月一日より十一月三十日まで

吉田徹男　アキ子　一ノ町
渡辺正　千代　天ヶ沢
内山和男　ツヤ江　上町
桜井照　尚子　横川浜
中村誠一　忠平　四ノ町
今井政　敏　天ヶ沢
高橋文七郎　ミツ子　新巻
平野千之　忠子　四ノ町
高田キミ　留一　新保
長沢ハナ　喜一郎　泉町
関川余松　寅一　朝日町
石田セイ　友雄　新保
吉田義次　タル　上田町
木村嘉彦　タミエ　矢代田
佐藤セキ　治一　鎌倉
保科清作　キン　山吹町
本間リョウ　安一郎　ウヂヰキ
木伏ライ　辰一　矢代田
中野ナミ　英也　上稲荷町
須藤源　歳男　矢代田
遠藤安次郎　タツ　竜宮
三浦正平　ヒデ　矢代田
村山ヨキ　龍次　新保
岡田ナイ　佐藤徳三郎　日町
上田咲子　銀作　ウヂヰキ
川瀬清太　鉄太郎　新保
池田チイ　作一　横川
佐藤庄一　権一郎　太田

おめでた

八月一日より十一月三十日まで

森田良一　カツエ　横町
高山孝二　イミ子　泉町
中村昭彦　幸子　二ノ町
高山茂夫　富美子　新保
捧孝一　勝子　矢代田
加藤征夫　芳枝　諏訪町
青木清男　初美　矢代田
阿部明栄　静枝　矢代田

訂正おわび

広報第一九三号の二面下段の「うぶ声」の欄中

竹石寄子

とあったのはつぎのとおり訂正いたします。

竹石啓子　一義　横町

たばこは町から かいましょう

小須戸町

―十二月納税のご案内―

★住民税……四期

★保険税……五期

四十五年度の町税について

固定資産税は全納期終了です。住民税は今回四期で全納期終了となり四十五年度の残る税目は保険税（六期）二月末であります。お忘れにならないよう納入方お願い申し上げます。

―税務課―